

2020年度 傾斜的研究費（全学分）  
社会連携支援（都連携研究支援・社会連携活動支援） 研究報告書

【研究費区分】：社会連携活動支援（出版）

【研究代表者所属】：人文科学研究科

【研究代表者氏名】：西山 雄二

【研究代表者氏名フリガナ】：ニシヤマ ユウジ

【研究代表者職】：教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

Catherine Malabou カトリーヌ・マラブー イギリス・キングストン大学・教授

星野太 早稲田大学・専任講師

吉松覚 立命館大学・客員協力研究員

【研究課題名】：カトリーヌ・マラブー『真ん中の部屋——ヘーゲルから脳科学まで』

【研究実績の概要】

カトリーヌ・マラブーの『真ん中の部屋——ヘーゲルから脳科学まで』を3名の共訳にて翻訳し、西山が訳者解説を付して出版した。マラブーはドイツのヘーゲルの弁証法哲学とフランスのデリダの脱構築思想を研究しつつ、マラブーは脳科学と哲学の対話を積極的に推し進めてきた。本書では、独仏の近現代哲学のみならず、人類学や精神分析、ジェンダー研究が、脳科学や神経生物学の知見とともに解釈されることで領域横断的な探究が試みられている。

【研究成果の都民への還元あるいは東京都への政策提言】

本事業は研究書の翻訳出版であるため、その成果は東京都および都民にのみ還元されるわけではなく、日本語読者一般に成果が還元される。

【東京都以外への社会への提言や活動の実績】

本書では、ヘーゲル弁証法の可能性が問い直され、ニーチェ/フロイトからドゥルーズ/バトラーまでの現代思想が議論の俎上に載せられる。脳科学の可能性を哲学の試練にかけられ、神経の可塑性、病態失認、クローン技術などが具体的に考察される。本書で示されるのは、こうした哲学と脳科学の創造的な対話をうながす「真ん中の部屋」である。脳科学や神経生物学の新たな知見とともに、現代の哲学研究を刷新するという領域横断性が示される点に本書の独自性がある。

**【外部資金への応募状況】**

・2020年度に新規採択：科研費基盤C「ジャック・デリダの講義録「責任の問い」の思想史的研究と国際的研究基盤の構築」

**【科学研究費助成事業や国等の提案公募型研究費，企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】**

・なし

**【出版したことによる波及効果】**

今回の翻訳をきっかけとして、2021年9月10日にマラブーのオンライン講演会を開催することが決定した。日本語読者一般が参加できる形で開催することで、本事業の成果をさらに社会還元したい。また、ヨーロッパの卓越した哲学者との中長期的な研究ネットワークの拡充のための貴重な機会としたい。